

■鶴見祐輔 政治家、著述家。<軍国主義>下に、開明的な立場から、国策を世界に表明する役割を担った。

つるみゆうすけ

内閣発足・・・1885＝ 岡山県で、群馬県出身者鶴見良憲の次男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 4歳：

日清戦争始・1894＝ 9歳：

日清戦争終・1895＝10歳：

岡山中学を経て、

日比谷公園・1903＝18歳：

日露戦争終・1905＝20歳：

満鉄発足・・・1906＝21歳：第一高等学校英法科を首席で卒業、

韓国併合・・・1910＝25歳： 東京帝国大学法科大学政治学科を卒業して、内閣拓殖局朝鮮課から官途を歩み始め、

大逆事件判決1911＝26歳：翌年にかけて、欧米に出張。 鉄道院に転じて、

明治天皇没・1912＝27歳：

大正政変・・・1913＝28歳： ロシア出張、

この間、 後藤新平の知遇を得、その女婿となって薫陶を受け、

21ヶ条要求・1915＝30歳：翌年にかけて、南洋出張、

本格政党内閣1918＝33歳：アメリカ出張、

ベルサイユ条約・1919＝34歳：鉄道事業研究のため、欧米各国に留学に出、

原敬首相暗殺1921＝36歳：帰国。鉄道院総裁官房文書課長を経て、

水平社結成・1922＝37歳：支那・沿海州へ出張、

関東大震災・1923＝38歳：

護憲三派圧勝1924＝39歳： 鉄道省運輸局総務課長を最後に官途を離れ、岡山県から衆議院議員選挙に立候補したが、落選して渡米。

円本時代始・1926＝41歳： 帰国後、正式に退官。

金融恐慌・・・1927＝42歳：

共産党事件・1928＝43歳：

世界恐慌・・・1929＝44歳： *衆院議員に当選、与野党勢力伯仲の折から、明政会を率いて衆院のキャスティングボートを握り注目され、

海軍軍縮条約1930＝45歳： 以後当選4回。米倉清一郎の「鶴見祐輔論」書かれ、

満州事変・・・1931＝46歳： 「自由人の旅日記」を著す。

この間、ヨーロッパ・アメリカ・オーストラリア・インド各国の大学等に遊説、また太平洋会議にも毎回出席して、わが国外交に対する国際的理解を喚起するための民間外交推進につとめ、そのかたわら政治評論・小説などを多数著わし、

日中戦争始・1937＝52歳：「後藤新平」(編)全4巻。

総動員+健保 1938＝53歳： *太平洋協会を設立し常務理事、国民使節としてオーストラリア・アメリカ両国を訪問、

第二次大戦始1939＝54歳：

大政翼賛会・1940＝55歳：米内内閣の内務政務次官から、

日米開戦・・・1941＝56歳：

戦時中は、大政翼賛政治会、大日本政治会などの顧問をつとめ、

敗戦・・・1945＝60歳：敗戦直後、進歩党結成に参画して、その幹事長に就任したが、

新憲法公布・1946＝61歳： 公職追放となる。

極東裁判決・1948＝63歳：

朝鮮戦争始・1950＝65歳：「感激の生活」。 公職追放解除。

独立回復・・・1951＝66歳：

テレビ放送始・1953＝68歳： *参議院議員に当選して、第1次鳩山内閣の厚相に任ぜられた。太平洋文化協会会長、

国土防衛民主主義連盟を創設、そのかたわら政治評論・小説などを多数著わした。

なべ底不況・1957＝72歳：

美智子妃・・・1959＝74歳： *参議院議員選挙に落選し、政界を引退。

安保闘争・・・1960＝75歳：

その後、 脳軟化症で倒れ、

東京初上 1964＝79歳：

十余年の闘病生活の後、

いざなぎ景気1966＝81歳：

石油ショック1973＝88歳： 没した。

平凡社百科事典、